

総括質疑

3月定例会では、予算審査常任委員会において各会派の代表が、令和8年度予算について一問一答方式による質疑を行いました。

ここでは、その質疑の一部を掲載します。

(予算審査常任委員会小委員会での審査)



行財政

柘 彰

日本維新の会

問 市民の命と生活を守る最前線である地方自治体として、当初予算策定にあたり、災害、感染症、エネルギー危機、物資不足といった有事等の緊急対応を加味しているか。

答 当初予算は経常的な経費を計上するものであり、常備する危機管理体制維持の経費は計上しているが、有事のための予算は計上していない。有事の際は、財政調整基金などを財源に補正予算の活用を図っていく。



教育

毛利 元

令和西山クラブ

問 部活動の地域展開は、教育施策であり、市政横断的な課題でもある。市長は今後の地域部活動がどのような姿であることを理想とするのか。

答 部活動の地域展開では、子どもたちにより多くの選択肢をつくること、より充実した指導体制を含めた環境をつくるのが大切である。それぞれの分野、種目に応じた多様な形態を、行政、学校、地域、諸団体とともに作り上げることが重要である。



防災

田村 直義

令和西山クラブ

問 東ポンプ場跡地への防災・スポーツ施設整備計画の見直しにより、施設の規模を縮小する案が出ているが、それにより実現できるものと実現できなくなったものは何か。

答 2階以上の避難スペースのほか、ミーティングスペースや屋内の子どもの遊び場、屋外の広場機能など、実現可能であり検討を進める。一方で大きなスペースが必要なスポーツの実施は困難であると考えている。



行財政

八木 優貴

令和自民党クラブ

問 市公式LINEに生成AIを活用したチャットボットを導入し、市民の利便性向上に取り組むとのことだが、詳細はどのようなものか。

答 例えばマイナンバーカード更新手続きの案内やLINEから窓口予約を可能にする仕組みを想定している。今後、市民からの問い合わせ内容の整理や回答精度の向上などを含めた検証を進め、夏ごろのリリースを目指し進めていく。

総括質疑とは？

予算審査常任委員会には、分野ごとに審査する「分科会」と予算議案全体を一括して審査する「小委員会」があります。

小委員会では、各会派から選任された委員が、それぞれ一人あたり30分の持ち時間で、一問一答方式の質疑を行います。これを「総括質疑」と言います。

詳しい総括質疑（小委員会）の内容は、ホームページの「会議録検索システム」の中で随時掲載しています。





福祉

中小路 貴司

令和自民党クラブ

問 多様化する健康課題に対して、令和元年度から健康マイレージ事業を実施しているが、取り組み内容と今後の展開についてはどうか。

答 健康無関心層に向け、無料歩数計アプリ「aruku」と商工会提供のプレゼント品を活用した事業を実施してきた。次年度からは、京都府と連携しアプリ利用料を抑えつつ健康づくり事業を続ける。引き続き商工会とも連携していきたい。



教育

川口 良江

長岡京未来の会

問 図書館は老朽化のため、中央公民館との一体的な再整備が検討されているが、リニューアルする際に自習室を配置する予定はあるか。

答 来年度に図書館を含めた文化ゾーンリノベーションの基本計画策定を予定している。自習室を望む声が多いことは承知しており、空間設計を見直し機能拡充を図りたい。学習ができるエリアも含め、多様なニーズに応じた魅力ある空間を検討する。



行財政

大伴 壘

輝（かがやき）

問 市民参加型プラットフォームVOICE NAGAO KAKYOは、今後どのような運用形態や機能拡充を想定しているのか。

答 市民生活に影響が大きい計画策定や事業推進を行う際には、オンラインを活用した市民参画の確保を原則としたい。継続的な市民参加を促す仕掛けとしてフィードバックや興味を持続させる取り組みなど、より有効なツールとして用いていきたい。



行財政

富田 達也

輝（かがやき）

問 市長として任期最後の予算編成において、到達したと考える点と今後の市政に引き継ぐべき課題をどのように認識しているか。

答 健幸すぽっとやインクルーシブ公園の整備など総合計画の現基本計画の諸施策は一定の成果を出せた。中でも新庁舎の全体完成を迎えるのは印象深い。課題は長岡天神駅周辺のまちづくりで、連続立体交差の実現に向けた一歩を着実に進めたい。



都市整備

宮小路 康文

輝（かがやき）

問 本市の有している西山や農地といった自然の資源を、グリーンインフラとして、地域の魅力向上にどのように活用していくのか。

答 西山の自然や水辺環境など豊かな地域資源を、地域振興や教育機会の提供などと結びつけることで魅力向上に寄与すると考えている。市民が自然の役割を日常的に実感し、環境に配慮した行動を促すための環境づくりを進めたい。



公共施設

福島 和人

公明党

問 新庁舎は長岡京市を象徴し、市民が誇れる建物であってほしい。12月のグランドオープンから3月までの期間、にぎわいの拠点としてどのようなイベントを開催するのか。

答 新庁舎の魅力を感じられるよう、式典や食のイベント、企画展などの開催を考えている。関連団体、地元商店街などと連携し、庁舎の新たな活用につながるようになぎわいづくり事業を展開したい。



地域振興

武山 彩子

日本共産党

問 企業の大小や対象を限定せず、多様な事業所に一定割合の助成や税の減免などを行うことが地域経済の発展に寄与すると考えるがどうか。

答 本市では令和4年度制定の中小企業振興基本条例の考えのもと、直接的・間接的な支援を行い、企業の創業や育成を図っている。中小企業診断士による相談窓口の設置など商工会や国・府と連携し、中小企業へのきめ細やかな支援を実施している。



上下水道

小原 明大

日本共産党

問 府営水道の建設負担水量の引き下げが、地下水の放棄につながるのか懸念している。おいしい地下水の今後についてどう考えているか。

答 地下水の維持には、PFOS、PFOAの問題といった水質面での安全の確保と低廉な水の供給が重要である。府営水道を導入している南部地域全体でアセットマネジメントについて議論し、案の段階で市民に示し意見を伺いながら進めていく。